

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岡山県 岡山市

自治体名 : 岡山県岡山市

担当課名 : 岡山市市民生活局スポーツ文化部スポーツ振興課

電話番号 : 086-803-1614

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	790 km ²
人口	712,571 人
公立中学校数	中学校37 校 義務教育学校1 校
公立中学校生徒数	16,962 人
部活動数	447 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	推進方針 策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市は、少子化の進展により、中学校の生徒数や教職員数は減少している傾向である。それに伴い、部活動は廃部や休部、活動の縮小に追い込まれることが想定される。

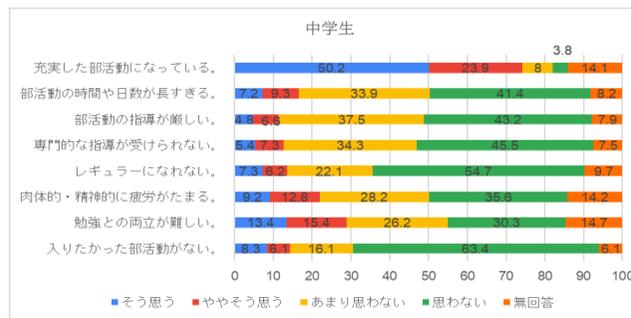
生徒にとっては、現在の部活動が充実した活動になっている一方で、少数ではあるが自分のやりたい部活動がなく、あったとしても少ない部員数であることなどにより、活動が低調となり、魅力が感じられない状況が生じる可能性がある。このため、生徒の部活動離れを引き起こすという悪循環が生じ、部活動が衰退する恐れがある。

また、教職員の部活動指導に係る負担が増しており、学校における働き方改革が求められていることや、他方で生徒の育成は学校、家庭及び地域において担われている中で、地域のスポー

ツ・文化芸術団体や指導者、施設などの資源と学校との連携・協働が十分ではない状況もみられる。

本市では、国の提言及びガイドラインの内容を踏まえ、令和5年3月に「岡山市立中学校部活動地域移行推進方針」を策定し、まずは休日の部活動から段階的な地域移行を目指している。（平日の地域移行も視野に入れ、できるところから取り組む。）その際、長年培われてきた「教師・生徒・保護者の関係性」や「部活動の教育的意義」を承継させつつ、関係者の理解を得ながら段階的に移行をしていくことが望ましいことから、当面は、学校部活動をベースに学校と地域が緩やかに連携していく形で取り組んでいる。

現在の部活動について



部活動顧問の負担感

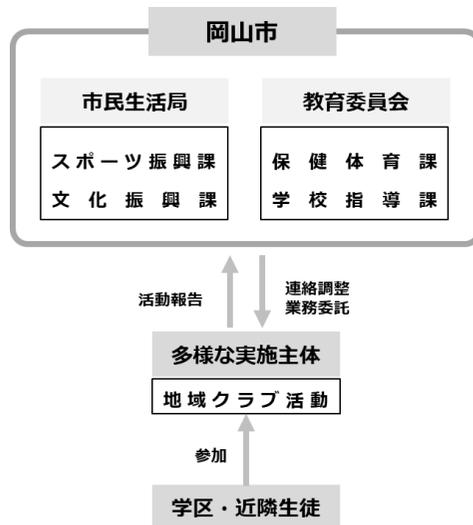


【令和5年度 岡山市部活動地域移行に関するアンケート調査】

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- 学校との連絡調整、学校に関する事項について
- ・保健体育課：部活動ガイドラインや主に運動部活動に関すること
- ・学校指導課：主に文化部活動に関すること

◎市長部局

- 中学生の地域スポーツ・文化芸術活動の環境整備に関すること
- ・スポーツ振興課：主に地域スポーツ活動に関すること
- ・文化振興課：主に地域文化芸術活動に関すること

年間の事業スケジュール

令和6年4月	地域クラブ・学校関係者との打ち合わせ
令和6年5月	中学校区検討会議①
令和6年6月	指導者への研修 岡山市検討会議①
令和6年7月	地域クラブ活動開始
令和6年10月	関係者へのアンケート調査①
令和6年11月	指導者研修 中学校区検討会議②
令和7年2月	岡山市検討会議② 関係者へのアンケート調査②
令和7年3月	次年度へ向けた検討会議③

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	38校（義務教育学校1校を含む）	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）	3クラブ（3部活）	
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）	0クラブ	
全体の指導者数	10人	全体の運営スタッフ数	10人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
岡北BCクラブ	岡山市	野球	月2回/ 週1回程度	主にAM	1・2学年 12名	R6.4～	岡北中学校グラウンド	5人	3人 （内、兼務0人）	会費なし	参加なし
岡北FCクラブ	岡山市	サッカー	月2回/ 週1回程度	主にAM	1・2学年 15名	R7.1～	岡北中学校グラウンド	2人	2人 （内、兼務0人）	会費なし	参加なし
岡北SSTCクラブ	岡山市	ソフトテニス	月4回/ 週1回程度	主にAM	1・2学年 18名	R7.1～	岡北中学校テニスコート	3人	3人 （内、兼務0人）	会費なし	参加なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 岡山市バドミントン協会、岡山市スポーツ推進委員協議会と連携した「バドミントン・モルック体験」の開催（年1回）
- アクションスポーツ団体PREXと連携した、多様な体験活動として「スケートボード・インラインスケート体験会」の開催（年1回）

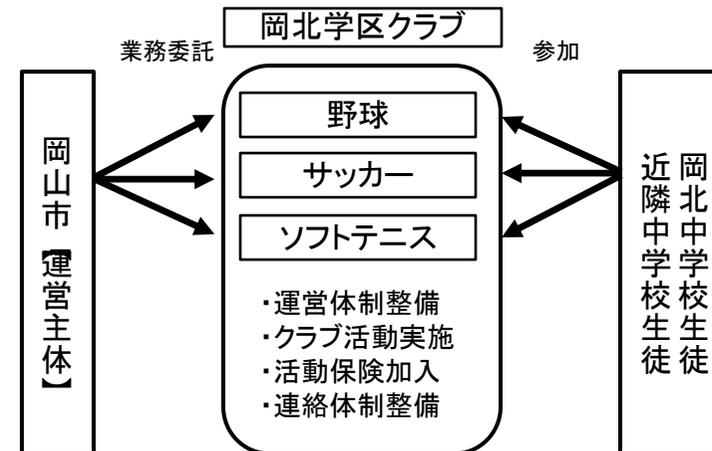
2.実証内容と成果

主な取組例

●岡北学区クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球・サッカー・ソフトテニス
運営団体名	岡山市
期間と日数	野球：4月～3月 月2回程度 サッカー：1月～3月 月2回程度 ソフトテニス：1月～3月 月4回程度
指導者の主な属性	部活動指導員、スポーツ少年団指導者
活動場所	岡北中学校
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	参加費徴収なし ※モデル事業のため全額公費負担
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年 1,200円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者（岡山市）
役割：各クラブの運営に関する助言、活動実績に基づき謝金等の支払い等
- 主任指導者 3名
役割：クラブ活動における主任者として、生徒へ指導を行う
- 運営補助者 7名
役割：クラブ運営の事務及び主任指導者の補助として、生徒へ指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

- 関係団体・市町村等との連絡調整等に関する取組
- 運営団体・実施主体の体制整備や質の確保に関する取組

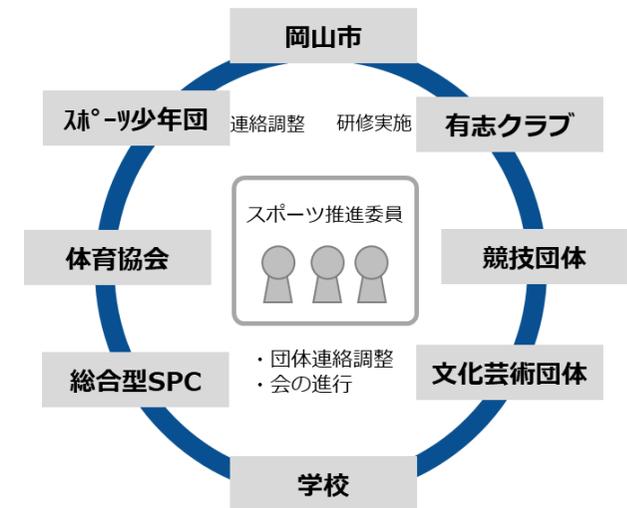
取組事項

- 定期的な会議の開催
 - ・市民生活局と教育委員会が連携した組織づくり
 - ・モデル学区検討会議
- クラブ創設・運営補助金制度
 - ・実施主体との連絡調整
 - ・指導者の確保
 - ・指導者研修の実施
 - ・支払システム等の運営体制構築

取組の成果

- 市民生活局と教育委員会が連携を図り、毎週ワーキンググループ会議を実施することで、企画や関係者との連絡調整を図ることができた。
- モデル学区（岡北中学校）を選定し、岡山市が部活動に配置されている部活動指導員やスポーツ少年団の指導者と学校の調整を行い、クラブ活動実施につなげることができた。
- モデル校区のスポーツ推進委員会を中心とした、学校を含めた地域の関係者による、中学校区検討会議を実施したことで、新たなクラブ活動の実施が可能となった。
- クラブ運営に係る要件等を定めた委託契約により、活動に係る費用の支払システム等の検証を行うことができた。

A中学校区地域移行検討会議
地域での子どもの活動を支える検討（掘り起こし等）



コーディネーターの具体的な動きの実績

- 地域クラブ実施主体と学校の連絡調整
- 地域クラブの運営等に係る課題等のヒアリング及び助言を実施
- モデル中学校区の地域関係者との検討会議の実施
- 地域クラブ実施主体の可能性となりうる団体や指導者への説明

今後の課題と対応方針

- 岡山市登録クラブの要件を整理することで、今後の活動の公的支援を可能とする体制を構築する。
- 各クラブを統括する岡北中学校区の運営団体を構築する。
- スポーツ推進委員会への研修を通じて、調整役としての資質向上を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

- 人材の発掘・マッチング・配置に関する取組
- 研修、資格促進に関する取組

イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項	指導者確保の人数	登録者属性	種目	資格有無												
<ul style="list-style-type: none"> ■ 競技団体への指導者募集案内 <ul style="list-style-type: none"> ・競技団体、大学、企業等と連携し、指導者確保 ■ コーチングに関する研修等 <ul style="list-style-type: none"> ・指導者に対して、資質向上のための研修実施 	<p>114名</p> <p>指導者の年齢構成</p> <table border="1"> <tr><td>10代</td><td>16名</td></tr> <tr><td>20代</td><td>87名</td></tr> <tr><td>30代</td><td>1名</td></tr> <tr><td>40代</td><td>2名</td></tr> <tr><td>50代</td><td>5名</td></tr> <tr><td>60代以上</td><td>3名</td></tr> </table>	10代	16名	20代	87名	30代	1名	40代	2名	50代	5名	60代以上	3名	<p>職業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生102名 ・会社員10名 ・その他2名 	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 ・サッカー ・野球 ・バスケットボール ・ソフトテニス ・バレーボール ・バドミントン など 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員 ・教員免許状 ・競技連盟公認審判員 ・JFA公認〇級コーチ
10代	16名															
20代	87名															
30代	1名															
40代	2名															
50代	5名															
60代以上	3名															

取組の成果

- ・R5より独自事業として、地域クラブの指導者確保、養成の観点から、部活動へ外部指導者を派遣
- ・市ホームページに指導者応募登録フォーム設置
- ・指導者114名を確保
- ・学校の希望に応じて、11校41部活へ派遣
- ・青年会議所への協力依頼により、従業員が指導者として活躍しやすい就業環境の整備を促進
- ・地域クラブ指導者を含め、年3回の指導者研修（受講率90%）

外部指導者派遣（独自事業）の実績

R6.12末現在	指導者数	派遣校	部活動	指導時間
実績	114	11	41	3731

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●研修、資格取得促進に関する取組 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【部活動指導補助員研修】

- ・対象：部活動指導補助員、地域クラブ指導者
- ・目的：部活動及び地域クラブ活動指導者の資質向上
- ・内容：①部活動及び地域クラブの教育的な意義や指導に当たって
②緊急時における対応（応急手当の実際）
③コーチングの視点を考える
- ・工夫した点：参集による研修実施
教育委員会や日本赤十字社と連携
大学准教授による講師
アンケート調査による指導者ニーズの把握

指導者研修の参加実績

- ・開催日：① 4月6日 ② 8月6日 ③ 2月13日
- ・開催回数：各1回
- ・参加人数：各回平均90人程度
受講ができない場合は、参加者ごとに別日を設定して、オンデマンド等の方法により受講率を高める工夫をした。

受講者の声

- ・研修内容は実際の指導時に活用できる内容と感じている。
- ・その種目特有の練習ルーティーンがあれば教えてほしい。
- ・あまり意欲的でない生徒や、内気な生徒に対しての接し方（声かけの仕方やアプローチの仕方等）が難しいので、生徒とのコミュニケーションの取り方なども研修内容に入れてほしい。
- ・生徒との関わり方や目標に対してどうやって達成するかの順序などの考え方がよく分かりました。
- ・個人的な事情で、今あまり部活動指導に行けておらず、そんな人（指導者）に教えられるのは生徒も先生も嫌な気持ちにならないか、など違うプレッシャーを感じてしまっていたが、研修を通じて、生徒のために自分なりに粘り強く頑張ろうと思いました。

今後の課題と対応方針

- ・部活動指導補助員及び地域クラブ指導者は、参集による研修受講を必須としたが、日程が合わない指導者もいたため、数回の研修実施となり、岡山市事務局の負担増となっている。
- ・指導者の資格等が明確でないため、岡山市独自の研修受講で資格を付与することが可能かについては、検証する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

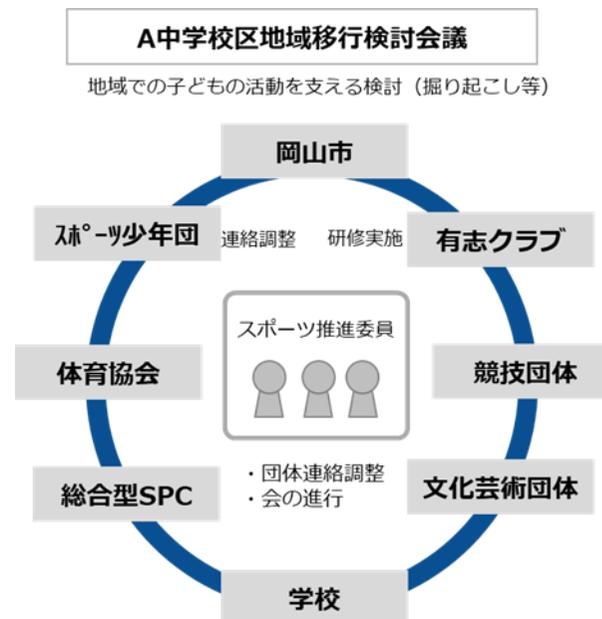
● 体育・スポーツ協会、競技団体、総合型地域スポーツクラブ、大学、企業等との連携に関する取組 **ウ：関係団体・分野との連携強化**

取組事項

- 学校と連携を進めるため、中学校校長会やPTA連合会等において、本市の取組状況等の説明を実施
- モデル中学校区において、担当部局行政職員とスポーツ推進委員が参画し、地域クラブ活動の円滑に実施するための検討会議を実施

取組の成果

- 中学校長会やPTA連合会等を訪問し、本市の取組状況や今後の見通し等の説明を行い、理解と協力を求めるとともに、取組の周知をする機会を得た。
- 小学校区の世帯数に応じて市が任命しているスポーツ推進員を中心に、モデル中学校区の学校を含めたスポーツ関係者が参集し、子どもの活動の機会確保のための検討会議を2回実施した。



モデル中学校区検討会議実績

- ・開催日 10月4日、11月21日
 - ・参加者 13人
- モデル中学校区の持続可能な子どもの活動を支えるための、受皿及び指導者の発掘をすることができた。

検討会議の主なメンバー

- ・行政担当職員（3人）
 - ・中学校区スポーツ推進委員（5人）
 - ・スポーツ少年団関係（5人）
 - ・学校管理職（2人）
- 18:00～19:00で公民館にて実施

今後の課題と対応方針

- 本市の取組状況は周知できたものの、各方面から明確なロードマップ作成の要望があがっており、R7にはモデル事業の検証を踏まえて作成予定
- 検討会議から地域クラブを統括する協議会へのモデル事業を実施予定

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●生徒の多様なニーズに応じた取組 ●レクリエーション的活動の取組 オ：内容の充実①

取組事項

■生徒の声を反映したクラブ創設

①部活動には設置のない種目の体験会を年1回実施する。

②R5にアンケート調査から、ニーズの高い種目の体験会を年1回実施する。

■レクリエーション的活動

③誰もが楽しむことのできるスポーツ体験を年1回実施する。

活動の詳細

参加人数	①5人 ②③23人	指導者数	①3人 ②③15人
属性	多様な体験活動の実施		
具体的な内容	①スケートボード・インラインスケート体験会 ②バドミントン体験会 ③モルック体験会 ※②③は同一日に実施		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 全くの未経験から、普段は教えてもらえないプロのコーチに熱心に教わり、出来るようになった。 ● 自分で道具を揃えて始めるのにはハードルがあり、今までやったことがなかったので、初心者向けで、しかも手ぶらで気軽に参加できて、とても有り難かった。 ● 色々な人と交流を持ち、身体を動かせるいい機会になりました。 ● 自分で実際に体験できて楽しかったし、指導者から正しいやり方が学べて良かった。 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 興味や関心はあっても活動できない子どもたちの救いに少しでもなれていたら嬉しい。 ● 競技の普及にもつながるし、子どもたちが楽しく活動している様子が見受けられて、指導者側も有意義な時間を過ごすことができました。 ● スポーツ推進委員として、これからも同じような機会があれば協力していきたい。 		
運営経費	①アクションスポーツ普及団PLEX (委託費99,990円) ②岡山市バドミントン協会 (委託費58,000円) ③岡山市スポーツ推進委員協議会 (旅費の支給)		<p>経費負担割合 市6：国4 ※モデル事業のため全額公費負担</p>

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●生徒の多様なニーズに応じた取組 ●レクリエーション的活動の取組 オ：内容の充実②

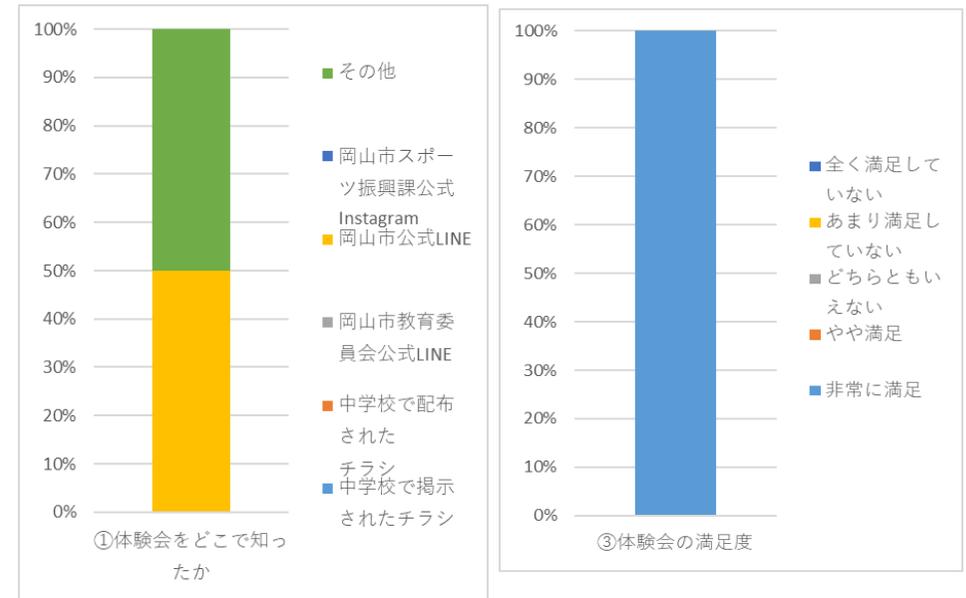
取組の成果

■種目の選定

- ①オリンピックで話題となったスケートボードを設定
- ②R5アンケート調査（生徒）の希望で最多のバドミントンを設定
- ③スポーツ推進委員研修で実施したモルックを設定

■関係団体との連携

- ・①及び②は、関係団体と委託契約を結び、指導を実施することができた。
- ・参加者の満足度は非常に高かった。
- ・③のモルック体験は、バドミントン体験とセットで実施し、スポーツ推進委員が指導にあたり、スキルアップを図ることができた。



出典:スケートボード・インラインスケート体験会アンケート調査

今後の課題と対応方針

■全市中学生を対象として参加募集を行ったが、スケートボード体験では参加人数が伸び悩んだ。保護者の送迎でなければ参加できない施設であったこと、中体連の試合の時期に重なったことが原因と考えられる。誰もが気軽に体験することができる環境を検討する。

■生徒のニーズに応じた活動の場の提供を試行するとともに、中学校区の生徒を対象とした多様な体験活動を地域の参画により実施することを検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●費用負担の在り方に関する取組

取組事項

■収支の試算、分析
 ・モデル事業期間中は全額公費負担とし、地域スポーツクラブ活動の運営や指導者配置等に必要コストを検証するとともに、受益者負担等と公的資金との適切なバランスも含めて収支構造を検討する。

カ：参加費用負担の支援等①

岡北学区地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・現在の事務局は市であるため、イニシャルコストは計上していない。

■ランニングコストの分析

岡北BC（ベースボールクラブ）
 岡北FC（フットボールクラブ）
 岡北SSTC（ソフトテニスクラブ）

活動費	岡北BC	岡北FC	岡北SSTC	合計
指導者謝金	203,200	44,800	102,400	350,400
保険料	37,530	12,140	19,300	68,970
合計	240,730	56,940	121,700	419,370

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

受益者負担試算	岡北BC	岡北FC	岡北SSTC
活動費	240,730	56,940	121,700
全額月負担額	625	1,898	3,380
試算根拠	活動費/①/②	活動費/①/②	活動費/①/②

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った。
 （詳細は次ページ参照）

収支バランス

R7までのモデル事業期間中は、全額公費負担としているため、受益者負担は求めないこととした。

経費負担割合
 市6：国4
 ※モデル事業のため全額公費負担

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●費用負担の在り方に関する取組 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

- 実施主体の「スポーツ活動費」について、指導者謝金と保険料を全額保護者負担とした場合の月負担額について、検証を行っていくこととする。
- R5アンケート調査（保護者対象）より、地域クラブ活動に係る月の負担額として最多の1,000円～2,000円以内となるよう検証する。
- 岡北SSTCは、1月からの2ヶ月間の活動ではあるが、休日は週1回のペースで活動できているため、指導者謝金の支出が増加し、月あたりの受益者負担額が最多の金額となった。
- 受益者負担を月1,000円～2,000円に抑えるためには、月1,500円～2,000円程度の公費負担が必要である。

受益者負担試算	岡北BC	岡北FC	岡北SSTC
活動費	240,730	56,940	121,700
全額月負担額	625	1,898	3,380
試算根拠	活動費/①/②	活動費/①/②	活動費/①/②

活動実績	岡北BC	岡北FC	岡北SSTC
①参加生徒数	35	15	18
②実施ヶ月	11ヶ月	2ヶ月	2ヶ月

今後の課題と対応方針

今年度は、「スポーツ活動費」についての検証を行った。本市が令和11年度の休日完全地域展開を目指しているうえで、公費負担の在り方についてサンプル採取ができた。

300クラブが創設されたと想定すれば、年額97,200千円～129,600千円の公費負担が必要となる。また、平日の活動を見込めば、さらに公費

負担が増加する見込みとなる。持続可能なクラブ運営のためには、受益者負担と公費負担のバランスをどのように設定するのが課題となる。

各クラブ活動への参加人数や活動頻度、指導者数等によっては、必要経費に差異が生じることも考えられるため、引き続き、費用負担については、検討を続けていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●費用負担の在り方に関する取組 カ：参加費用負担の支援等③

資料

活動費	岡北BC	岡北FC	岡北SSTC	合計
指導者謝金	203,200	44,800	102,400	350,400
保険料	37,530	12,140	19,300	68,970
合計	240,730	56,940	121,700	419,370
受益者負担試算	岡北BC	岡北FC	岡北SSTC	
活動費	240,730	56,940	121,700	
全額月負担額	625	1,898	3,380	
試算根拠	活動費/①/②	活動費/①/②	活動費/①/②	
活動実績	岡北BC	岡北FC	岡北SSTC	
①参加生徒数	35	15	18	
②実施ヶ月	11ヶ月	2ヶ月	2ヶ月	

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は、「地域クラブ活動」と「多様な体験機会の確保」の試行を通じて、下記の項目について取組を行った。

(ア)関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- ・関係団体・市町村等との連絡調整
- ・運営団体・実施主体の体制整備や質の確保

(イ)指導者の質の保障・量の確保

- ・人材の発掘・マッチング・配置
- ・研修、資格確保促進

(ウ)関係団体・分野との連携強化

- ・体育・スポーツ協会競技団体、企業等との連携

(オ)内容の充実

- ・生徒の多様なニーズに応じた取組
- ・レクリエーション的活動

(カ)参加費用負担の支援等

- ・費用負担の在り方

●成果の評価

(ア)関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- ・モデル中学校区で3つの地域クラブ活動を試行することができた
- ・モデル中学校区で検討会議を実施し、新たな地域クラブの可能性が生まれた

(イ)指導者の質の保障・量の確保、(ウ)関係団体・分野との連携強化

- ・体育協会、大学、企業等と連携し、114名の指導者を確保することができた
- ・年3回の研修実施と部活動への派遣により、指導者の養成ができた

(オ)内容の充実

- ・アンケート調査を踏まえ、2つの多様な体験機会の場を提供することができた

(カ)参加費用負担の支援等

- ・受益者負担と公費負担とのバランスについて、検証をすることができた

●今後に向けて

本市では、R11年度の休日部活動の完全地域展開を目指している。子どもの体験機会の確保のため、学校を含めた地域の連携による、地域クラブ活動の創設について試行を進めている。

今年度の地域クラブ活動の試行にあたり、モデル中学校区で検討会議を実施することで、新たな地域クラブ活動の誕生へとつながる効果が見られた。今後についても、学校を含めた地域へ丁寧な説明及び働きかけにより、理解と協力を求めつつ、新たな地域クラブ活動の試行と持続可能な活動を支える運営団体の整備を試行していきたい。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

■生徒の多様なニーズに応じた取組、レクリエーション的な活動の取組

- ・市内全校へ参加啓発チラシを配布
- ・岡山市公式ラインへ参加啓発チラシを掲載

・体験会后、参加中学生へアンケート調査を実施



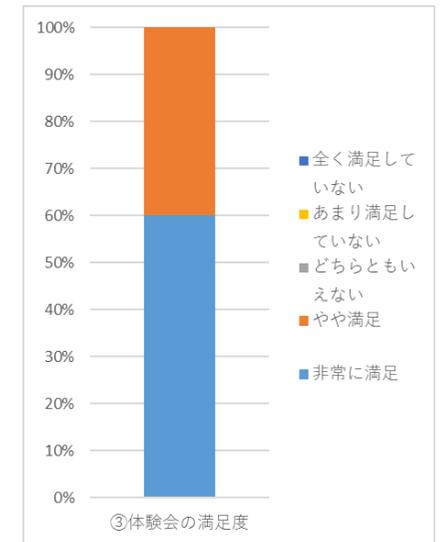
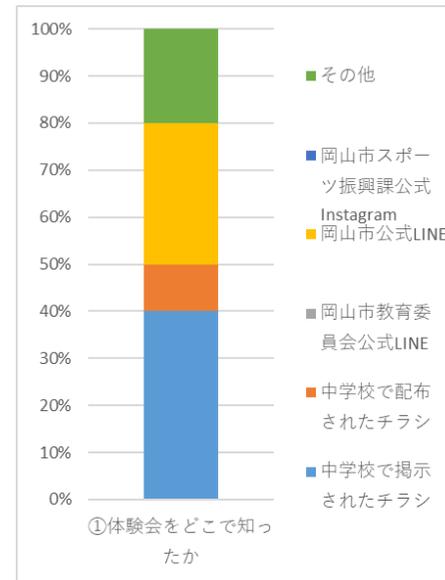
【生徒への参加啓発チラシ】

出典:岡山市スポーツ振興課



【アンケート結果】

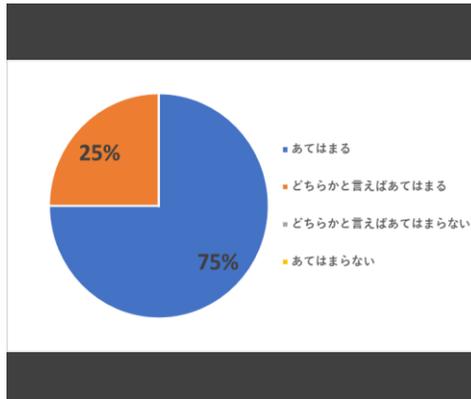
出典:バドミントン・モルック体験アンケート調査（中学生）



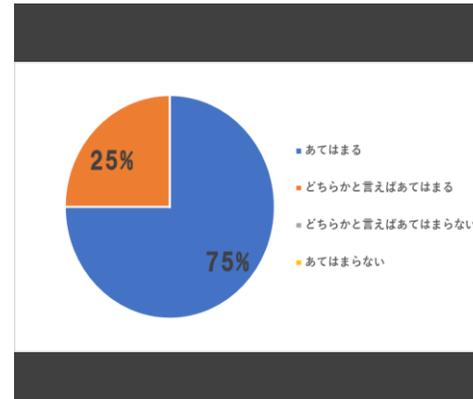
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

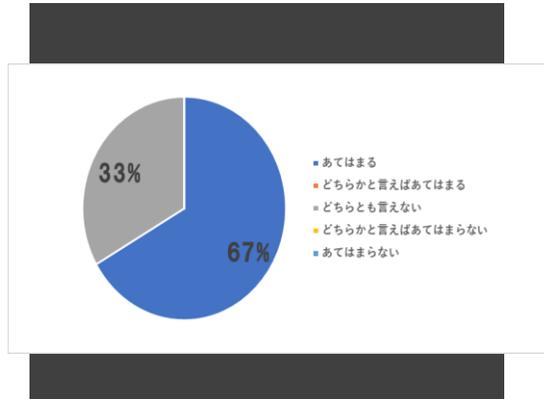
【クラブ指導者】Q.クラブの活動や指導にやりがいを感じるか。



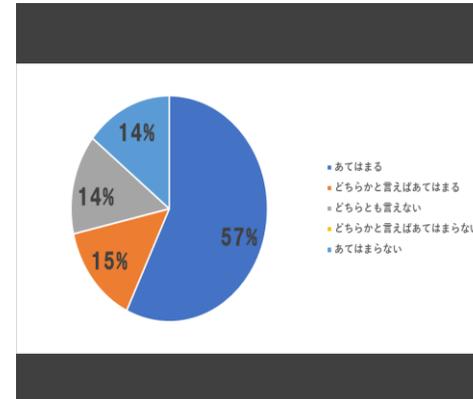
【クラブ指導者】Q.部活動顧問と良好な関係が築けているか。



【中学校顧問】Q.クラブは、部活動と同じ方向性で指導されていると感じるか。



【保護者】Q.クラブの指導者は熱心に教えてくれるか。



●参加者の声

クラブ指導者①より

・部活動の活動が減少している一方で、積極的に取り組んでいるグループがあることには、とても価値があると思う。一方でその価値がすべての子ども、保護者に伝わっているのかという面では少々疑問がある。

クラブ指導者②より

・今後は顧問と相談して中体連の大会に参加することで地域移行を進めたい。今後、地域移行がどう進むのかわからないところが多く、教員、生徒、保護者、地域の者は不透明感や不安をもっている。

中学校顧問より

・子どもたちの練習機会が増えることはすごくいいと思う。
・学校の状況についても考慮しながら、活動を考えていただいていると思う。

保護者より

・バッティング練習のおかげで、試合で打てるようになったと喜んでます。野球部とは違った練習もできて、細かい指導を充実させて頂き、感謝しております。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【地域クラブ活動（野球）の様子】



【地域指導者による部活動指導の様子】



【多様な体験活動（スケートボード）の様子】



【多様な体験活動（モルック）の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

モデル中学校に配置されている部活動指導員や地域のスポーツ少年団指導者から、地域クラブ活動の実施希望があり、ヒアリングを実施した。
市登録の地域クラブの要件等を説明した。

実施主体の代表者と学校、行政担当職員で、地域クラブ活動の試行について協議を行った。
活動場所は、学校であること、クラブ活動は社会体育であり、顧問の参加は不要であること等を確認した。
(実施主体と市で委託契約を締結)

休日と長期休業中の平日を基本として、地域クラブ活動を開始した。
部活動をベースとした活動のため、大きな混乱は見られなかった。
広報連絡により、TV取材が入り、今後の全市展開に向けての周知を図った。

令和6年

関係者へのヒアリング

ワーキンググループで検討

学校との調整

生徒・保護者への説明

地域クラブ活動の開始

中学校区検討会議の設置

市民生活局と教育委員会で組織するワーキンググループで実施方法等の検討を行った。
運営団体は岡山市とし、休日を基本として、可能であれば平日の活動も可能とすることを決定した。また、指導者研修の受講も条件とした。

学校の協力のもと、地域クラブ活動の試行に取り組む種目の生徒及び保護者に対して、目的や実施方法、参加方法等についての説明をした。
また、全校の生徒及び保護者を対象に、地域クラブ活動の試行についての文書を配布し、理解と協力を求めた。

地域クラブ活動の開始とともに、他の種目の受け皿や指導者の発掘等を目的として、学校を含めた地域の関係者から構成する、中学校区検討会議を設置した。
また、中学校区のスポーツ推進員（6人）が加わり、学校と地域をつなぐ中心的な役割を依頼した。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
							
取組内容							
成果イメージ (想定)							
推進体制				